

第2期

第1回子どもの権利委員会(2024.6.6)



子どもの権利と

中野区子どもの権利委員会の役割

—第2期スタートにあたって—

内田 塔子(東洋大学)

# rights (権利) とは

---

あたりまえのこと、誰にとっても当然で、正しいこと

## ◎ロングマン現代英英辞典

- 【right】something that you are morally, legally, or officially allowed to do or have  
(道徳的、法的に、あるいは公式に、何かをする、あるいは持つことが許されていること。)

## ◎コリンズコウビルト米語英英辞典

- If you have a right to do or to have something, you are morally or legally entitled to do it or to have it.  
(何かをするrightがある、何かを持っているrightがある、というとき、あなたは、道徳的に、法的に、それをする、あるいはそれを持つことが当然である、ということ。)

# 人権とは

---

すべての人が、生まれながらにして持つ、当たり前のこと

◎世界人権宣言

第一条 すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。

# 子どもの権利とは

---

- 子どもが、人間らしく、幸せに生きられ、健康に成長するために必要なこと
- 世界中**すべての子どもに生まれながらに**「子どもの権利」があり、だれもそれをうばい取ることはできない

日本ユニセフ協会ホームページ

[『教えて！ユニセフ 子どもと先生の広場』「子どもの権利条約」](#)

# 国連・子どもの権利条約



## 前文

## 第I部

第1条	子どもの定義	第15条	結社・集会の自由	第29条	教育の目的
第2条	差別の禁止	第16条	プライバシー・名誉の保護	第30条	少数者・先住民の子どもの権利
第3条	子どもの最善の利益	第17条	情報へのアクセス	第31条	休息、余暇、遊び、文化的・芸術的 生活 への参加
第4条	立法・行政その他の措置	第18条	親の第一次養育責任	第32条	経済的搾取からの保護
第5条	親その他の者の指導	第19条	虐待・放任からの保護	第33条	麻薬・向精神薬からの保護
第6条	生命への権利	第20条	代替的養護	第34条	性的搾取・虐待からの保護
第7条	名前・国籍を得る権利	第21条	養子縁組	第35条	誘拐・売買・取引の防止
第8条	身元の保全	第22条	難民の子どもの保護・援助	第36条	他のあらゆる形態の搾取からの保護
第9条	親からの分離禁止	第23条	障害児の権利の国際協力	第37条	自由を奪われた子どもの適正な取扱い
第10条	家族再会	第24条	健康・医療への権利	第38条	武力紛争における子どもの保護
第11条	国外不法移送・不返還の防止	第25条	措置された子どもの定期的審査	第39条	心身の回復と社会復帰
第12条	意見表明権	第26条	社会保障への権利	第40条	少年司法
第13条	表現・情報の自由	第27条	生活水準への権利	第41条	既存の権利の確保
第14条	思想・良心・宗教の自由	第28条	教育への権利		

## 第II部

第42条	条約広報義務
第43条	子どもの権利委員会の設置
第44条	締約国の報告義務
第45条	委員会の作業方法

## 第III部

第46条	署名	第49条	効力発生	第52条	廃棄
第47条	批准	第50条	改正	第53条	寄託
第48条	加入	第51条	留保	第54条	正文

- 1989年国連で全会一致で採択
- 日本は1994年に批准
- 全54条
- 前文—条約の背景・趣旨・原則について
- 第I部(第1条～第41条)  
—具体的な子どもの権利規定
- 第II部(第42条～第45条)  
—締約国の義務(広報・報告)
- 第III部(第46条～第54条)  
—発効・批准などの最終条項

[日本ユニセフ協会ホームページ](#)より

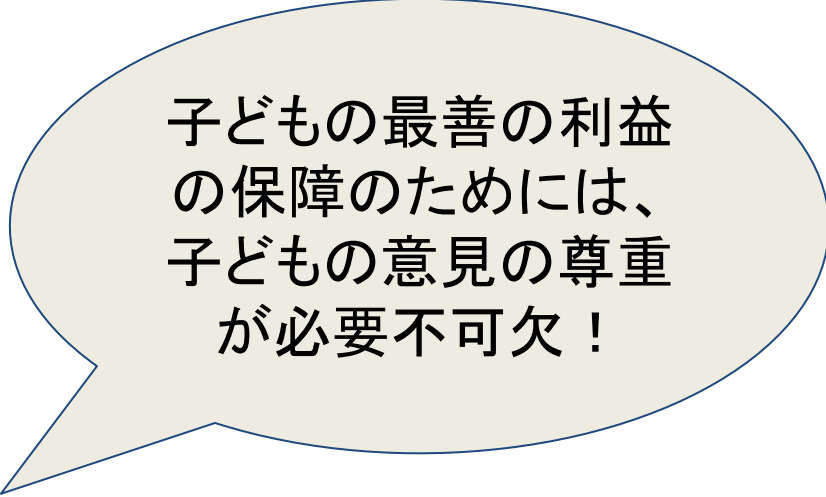


# 条約の一般原則

---

一般原則：条約が定めているその他の様々な権利を保障する上で不可欠な前提・基本的な考え方で、以下の4つ

- 「差別の禁止」 (2条)
- 「**子どもの最善の利益**」 (3条)
- 「生命・生存・発達への権利」 (6条)
- 「**子どもの意見の尊重**」 (12条)



子どもの最善の利益の保障のためには、子どもの意見の尊重が必要不可欠！

家庭・学校・地域において、子どもに関わる何かを決める際、これまでは、おとなが自身の経験や見識等を踏まえ、「子どもによかれ」と思っておとなの考えや判断を採用することが多かったのではないかと思います。条約はそのような場面で、子どもに影響を与えるすべての事柄について、事前に情報を伝えた上で、おとなが子どもに意見を聴き、その意見を尊重し、真剣に考慮することを求めています。また、おとなが子どもの意見を聴く際は、圧力をかけず、意見を強要せず、意見を言うか言わないかは子どもが自由に選ぶこととしています。子どもがさまざまな活動に参加し、意見を表明し尊重される経験を積むことが、子ども自身の育ちのみならず、家族にとっても、コミュニティ・学校・国にとっても、民主主義にとっても意義があるとされているのです。

参照：国連子どもの権利委員会・一般的討議（2006年）「意見を聴かれる子どもの権利」及び一般的意見12号（2009年）「意見を聴かれる子どもの権利」

日本語訳は『ARC 平野裕二の子どもの権利・国際情報サイト』で読むことができます。

# 第12条 子どもの意見の尊重

1. 締約国は、自己の見解<sup>1)</sup>をまとめる力のある子ども<sup>2)</sup>に対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について<sup>3)</sup>自由に<sup>4)</sup>自己の見解を表明する権利を保障する。その際、子どもの見解が、その年齢および成熟に従い、正当に重視される。<sup>5)</sup>

- 1) "his or her own **views**" opinionsではない。"views"には、話し言葉や書き言葉によって表されたものだけでなく、遊び・身振り・表情・お絵描き等の非言語的コミュニケーション形態によるものも含むとされています。
- 2) 自己の見解をまとめる力のある子どもは、生まれたばかりの子どもも含まれます。したがって、12条は年齢にかかわらず、乳幼児期の子どもも含む、すべての子どもに保障される権利です。

第1期中野区子ども権利委員会 [乳幼児期の子どもヒアリング](#) (中野区公式youtubeチャンネル)

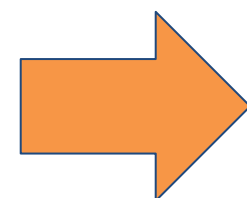


- 3) 条約は「すべての事柄」としていますが、こども基本法第3条3項では、「三 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。」と限定してしまっています。また、子どもの意見を正当に重視する旨が明記されていません。
- 4) 意見を言う言わないは子どもが自由に選べます。意見を強要されたり大人の意見を忤度させたりするようなことがあってはなりません。
- 5) 「子どもの意見の尊重」が実際の場面で問題になるのは、**子どもとおとなの意見が一致しない時**だと思います。条約12条は、子どもの意見を鵜呑みにしたり、子どもの言いなりになったりすることをおとなに求めているものではありません。(次スライドへ)

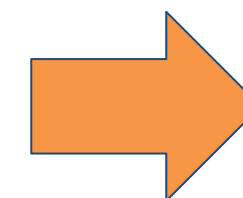
# おとなと子どもの相互尊重に基づく対話の重要性

- 子どもの意見を尊重するとは、おとなと子どもが相互尊重に基づく**対話**を積み重ねていくということです。まず、子どもの意見を採用できないとおとなが判断する時は、おとながなぜそう思うのか、理由を子どもにわかりやすく説明します。おとなの理由説明を聞いて、すぐには子どもが納得しない場合もあり得ます。その際、再度おとなは「なぜ納得できないのか」を子どもに尋ね、子どもの意見をさらに聴いていくとともに、おとなの意見が慣例に縛られていないか、自身の固定観念にとらわれていないか等問い直しながら、おとなの意見を修正したりさらなる説明を加えたりします。このような対話の繰り返しを通じて、子どもはおとなの視点や経験、懸念、考慮に入れなければならない情報や制約条件等について理解したうえで、より様々な観点から自身の意見を見直し、再形成していくことができます。おとなは子どもから、おとなにない視点や考えを知るとともに、「なぜ子どもの意見を採用できないのか」と問われることで、おとなの意見の妥当性について再考する機会になります。
- 条約が「子どもの最善の利益」の保障に「子どもの意見の尊重」が必要不可欠としているということは、かみ砕くと、上に記したような**おとなと子どもの対話のプロセス**の先にこそ「**子どもの最善の利益**」の保障があるということだと思います。
- 条約は、5条で「親の指導の尊重」を既定しています。12条「子どもの意見の尊重」との関連で、保護者の関わり方について、以下のように変化させていくことを求めています。(国連子どもの権利委員会・一般的意見12号(2009年)「意見を聴かれる子どもの権利」参照。)

【子どもの知識や経験、理解力が  
十分でない時】  
子どもの不足した知識や経験、  
理解力を補う関わりを行う

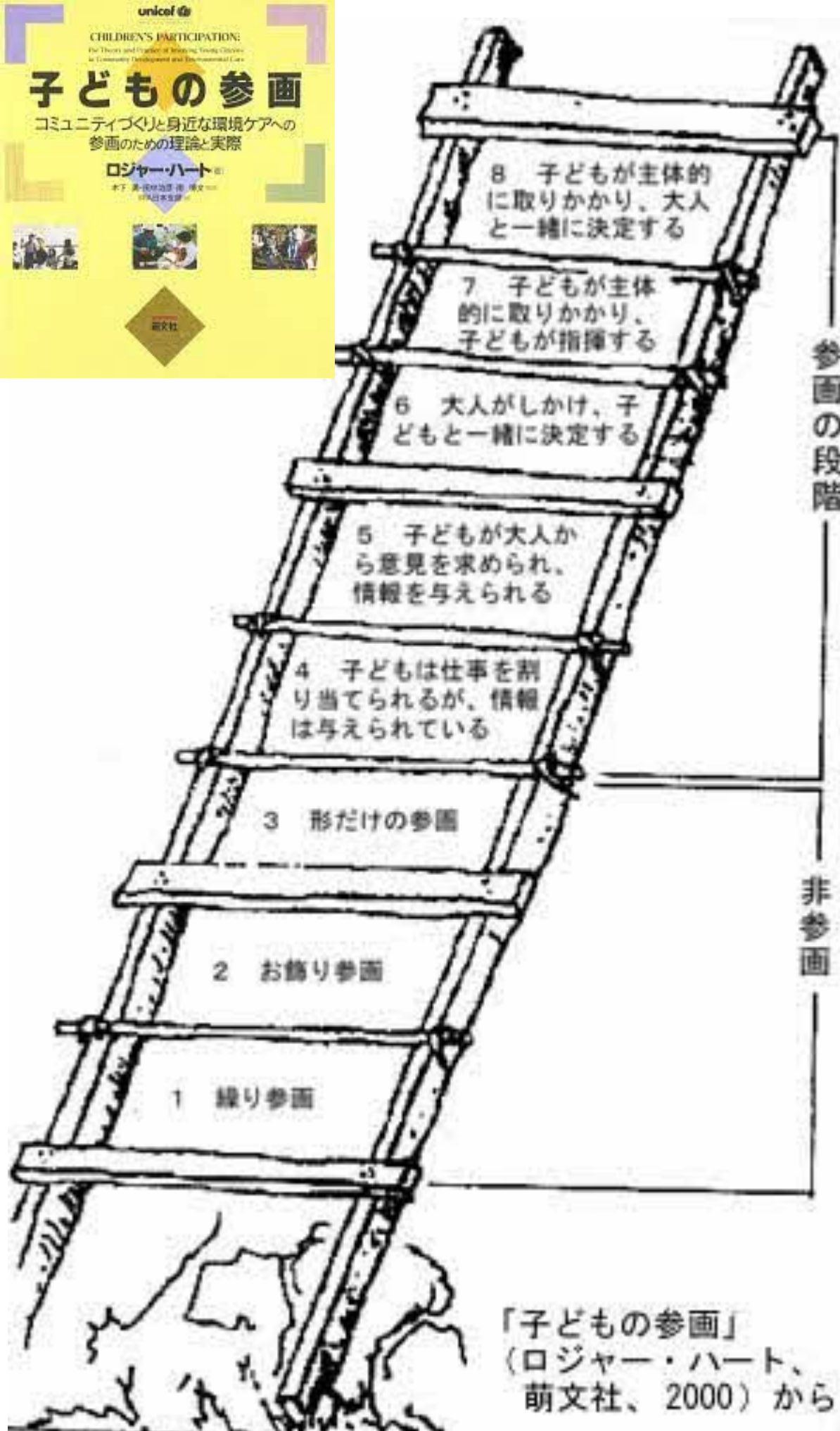


子どもの成長に従って、  
子ども自身の気づきを促す注意  
喚起や助言に移行していく



対等な立場の意見交換に関わり  
を変化させていく





## ロジャー・ハート『子どもの参画』(萌文社、2000)

ニューヨーク市立大学教授、専門領域:環境教育・心理学

子ども参加の意義にいち早く焦点を当て、理論化と実践的指針の具体化に先駆的な役割を果たす。

## 子どもが社会に参加していくプロセスを8段階に区分

①～③:非参加

①あやつり:就学前の子どもが、子どもに関する社会政策にインパクトを与えるような政治的プラカードを持っている

②飾り:子どもたちに、ある運動にかかわったTシャツが配られたり、そのTシャツを来てイベントの中でうたったり、踊ったりするような場合。

③みせかけ:子どもに発言する機会を与えられているが、実際にはそのテーマやコミュニケーションの方法について、ほとんどあるいは全く何の選択の余地もなく、自分の意見を公表する機会もほとんどあるいは全くない

※あたかもおとなが子どもの意見を尊重しているようで、実際にはすべての企画、実施がおとなの手で行われている。

④～:参加

④1)子どもたちが計画の意図を理解している、2)自分が関わることとその理由について、誰が決めているか知っている、3)子どもが有意義な役割を果たしている、4)子どもがその計画が自分たちに明らかにされた後に、自発的に関わっている 以上4つが参加と判断し得る必要な条件

⑤計画はおとなによって企画され、進められるが、子どもたちはそのプロセスを理解し、子どもたちから出された意見は誠実に受け止められる。

⑥おとなによって着手されたものであるが、その決定の仕方は、子ども・若者とともにわかちあっている。

⑦子どもが着手し、子どもが指揮する。おとなの指導は受ける

⑧子どもが着手し、おとなとともに決定する

あやつり・見せかけの参加から真の参加へ、子ども・若者一人ひとりが、自己のアイデンティティを形成しつつ、個人としての権利を自覚していくことが大切。

・ローラ・ランディ(Laura Lundy)教授(クイーンズ大学ベルファスト・子どもの権利センター)が提唱。

・子どもの意見表明・参加を導く国連・子どもの権利条約第12条の概念化に関する論文の中で、「子どもの参加を実現する上で重要な項目として、①場 ②声 ③声を聴く人 ④影響力の4つを列挙。

・子ども参加を実践する際、前述の4項目について確認することで、より有効かつ有意義な子ども参加を行うことができると説明。

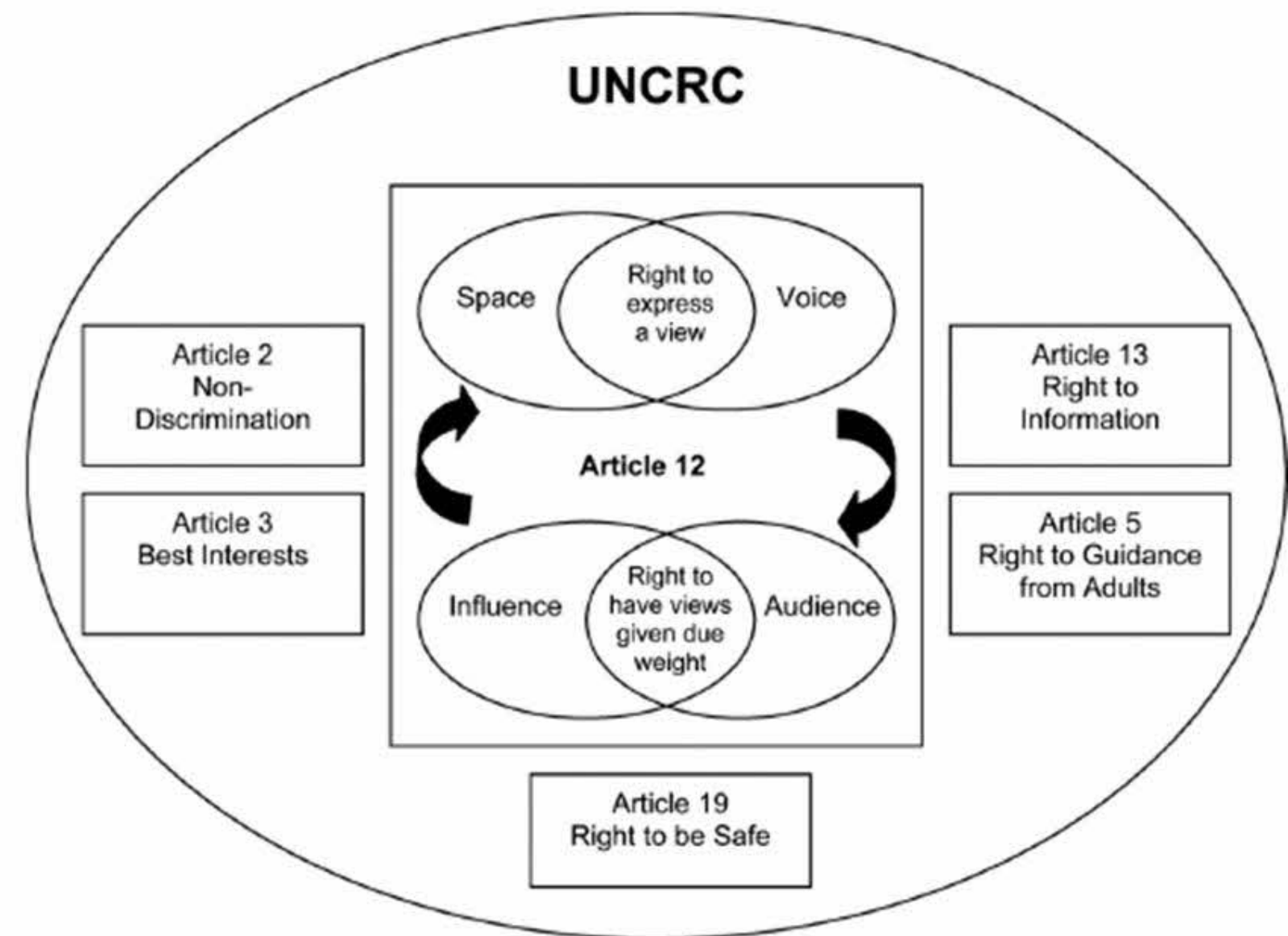


図1.第12条の概念

# 国連・子どもの権利条約の特徴



- 子ども最優先—世界共通の決意の表れ

過去の戦争を反省し、未来の平和な社会を築くためには、子どもを最優先にして尊重しなければならない。

- あらゆる差別の禁止（前文3項、第2条）

人種、皮膚の色、性、言語、政治的その他の意見、国民的民族的社会的出身、財産、障害、出生等による差別を禁止

- 子ども観①：子どもも権利行使の主体である

**「保護する対象」→「権利行使の主体」**

子どもの最善の利益を保障（第3条）するためには、

子どもの意思が正当に重視されなければならない（第12条 意見の尊重）

- 子ども観②：子どもは「未来のおとな」のみならず、大人と同様、**「現在を生きる社会の構成メンバー」**である



# 子どもは、「権利救済される対象」のみならず、「権利救済する主体」でもある。

子どもの権利委員会・一般的討議勧告（2018）：人権擁護者としての子どもの保護およびエンパワメント(Protecting and Empowering Children as Human Rights Defenders)

5.8 Parents, family and community members and adults working with or for children  Adults should actively seek information about children’s rights, learn about their obligations in the protection and empowerment of children, and recognize child human rights defenders when they act as such and be inspired by them.	5. 8 親、家族構成員、コミュニティの構成員および子どもとともにまたは子どものために働く大人  大人は、子どもの権利に関する情報を積極的に求め、子どもの保護およびエンパワメントにおける自らの義務について学ぶとともに、子どもが人権擁護者として行動するときにはそのことを認識し、かつこれらの子どもたちから示唆を受けるべきである。
--	---

# 子どもにやさしいまち Child Friendly Cities

---

## 【意見表明・参加について】

- ・ まちについての決定に影響を及ぼす権利
- ・ 自分たちが望むまちのあり方について意見を表明する権利
- ・ 家庭・コミュニティ・社会生活に参加する権利
- ・ 文化的・社会的イベントに参加する権利

## 【生命・生存・発達の権利について】

- ・ 保健ケア・教育・住居といった基本的サービスをうける権利
- ・ 安全な水を飲み、適切な衛生設備にアクセスする権利

## 【暴力からの保護】

- ・ 搾取・暴力・虐待から保護される権利

## 【安心安全で自然・動植物が豊かな生活環境】

- ・ 子どもだけで道を安心して歩ける権利
- ・ 友だちと会い、遊ぶ権利
- ・ 植物や動物のための緑のスペースをもつ権利
- ・ 汚染されていない環境で暮らす権利

## 【差別の禁止】

- ・ 民族的出身、人種、所得、ジェンダー、障害にかかわらず、すべてのサービスにアクセスできる平等な市民でいる権利



# 子どもにやさしいまちの基本戦略

---

- ・ インクルーシブな子ども参加システムと参加プロセスの確立
- ・ 子どもにやさしい（子どもの権利保障のための）政策と法的枠組の整備（子どもの権利に関する総合条例の制定）
- ・ まち全体の子どもにやさしいまちづくり行動計画の策定（総合的な子ども計画の策定）
- ・ 横断的な庁内調整とパートナーシップの構築
- ・ **モニタリング**を通じたデータ・エビデンスの収集（子どもにとっての成果や影響をエビデンスに基づき評価する）
- ・ 子どものための十分な予算の確保
- ・ 子どものための持続的な成果を作り出す能力構築（自治体職員や関係者の能力を高める）
- ・ 対話、意識啓発とアドボカシーの促進（地方議会議員、自治体職員、専門家、市民組織、保護者、子ども支援者そして子ども自身が子どもの権利を知り、理解し、実践に活かせるようにする）
- ・ 独立した子どもアドボカシーをもつこと（子どもオンブズパーソン制度の設置等）

（参考）

UNICEF Innocenti Research Centre(2004), *BUILDING CHILD FRIENDLY CITIES—A Framework for Action*

UNICEF(2018), *Child Friendly Cities and Communities Handbook*

# 中野区子どもの権利委員会の役割

## 中野区子どもの権利に関する条例

第22条 推進計画および子どもに関する取組を検証するため、**区長の附属機関**として、中野区子どもの権利委員会（以下「権利委員会」といいます。）を置きます。

2 権利委員会は、**区長の求めに応じ**、次に定めることについて**調査や検討を行い、意見を述べます**。

(1) **子どもの権利の保障の状況に関すること**。

(2) **推進計画および子どもに関する取組の検証、改善等の提言に関すること**。

(3) **その他区長が必要と認めること**。

3 権利委員会は、前項各号に定めることに関し、**必要があると認めるときは、区長に意見を述べることができます**。

（略）

（権利委員会の意見の尊重）

第23条 **区長は、権利委員会から前条第2項および同条第3項の意見を受けたときは、これを尊重し、必要な取組を行うよう努めるものとします**。

2 **区長は、権利委員会からの意見を受けたときは、すみやかにこれを公表し、広めていくものとします**。

（略）

# 第1期答申内容

---

- 子どもの意見表明・参加に関して、区民・区職員が共通認識を持つ必要があることの整理
- 評価・検証の仕組みに関する基本的な考え方

第1期中野区子どもの権利委員会最終答申を参照